

岡山県の公民館の今とこれから

～平成30年度公民館実態調査より～

岡山県公民館連合会

<http://www.pal.pref.okayama.jp/kenkouren/>



平成30年12月～平成31年1月に実施した「公民館実態調査」のポイントをまとめています。

公民館の現状

公民館の分館数は減少したが、**本館数の増加**に伴い(図1)、**常勤の館長数と公民館主事数が増加**しました(図6・7)。また、**社会教育主事**の資格を有している職員数も**増加**しました(図8)。

今後は、複合施設のメリットを生かす公民館運営が重要になると想定されます。

公民館の約**3割**が**複合施設**ですが(図3)、**図書館**と併設されている公民館が増加しています(図4)。

地域住民から**事業への参画や運営への協力を得ている**と感じている公民館は**8割**を超えています(図13)。公民館を利用する**団体(グループ)**や公民館の**事業が増加**している中(図16・32)、**地域課題の解決**や**子育て支援**、**地域社会づくりに関する団体の増加率が高**なっています(図17)。

利用者の固定化、若年層の公民館の利用がなかなか増えないのが現状である。中には、敷居が高いと感じている方もおられるので、行事など親子で参加体験できるものを増やし、日頃から公民館を身近に感じてもらえるように努めたい。(若い世代を含めた幅広い年齢層への利用促進)

自由記述から

特に、今後地域を担って立つ40～50代の次世代が活動の拠点の一つとして公民館を利用するためには、SNSをはじめとした広報手段をもっと充実させ、公民館を理解してもらう必要がある。(情報発信)

防災・減災への対策

避難所マニュアルを策定している公民館が**5割**を超え(図25)、住民参加の**避難訓練**を行う公民館が**増加**しています(図28)。課題としては、避難所指定の公民館の約**3割**が未だ**耐震化されていない**ことが挙げられます(図27)。

防災・減災がテーマの講座を毎年実施している公民館も増加しており(図29)、防災に関する気運は公民館でも高まっているようです。

市民の防災意識を高めるため、関係機関とつながりを持ち、想定外の災害時においても速やかに対応できる力を身につけるため、学びの場を提供することが大切である。

自由記述から

事業連携の現状

他の機関や施設と連携した事業数や公民館数は5年前と比べ減少していますが(図34・35)、**首長部局及び出先機関、社会教育団体、NPO法人、民間教育業者・企業**等との連携は**増加**しています(図36)。

学校園と連携する機会は、今後も増え続けると想定されます。

学校園との連携については、約**9割**の公民館が**小学校**と連携しています(図38)。**中学校**や**高等学校**と連携する公民館が**増加**しており(図38)、学校との連携事業を「公民館事業の一つ」と位置づけている公民館が8割を超えています(図39)。

事業の自己点検及び評価の実施状況

事業の自己点検や評価を行っている公民館は、**担当職員が評価**するケースが最も多く(図22)、**行っていない公民館は、方法が分からないから**という理由が**4割**を超えていました(図23)。

学習要求の把握状況

学習要求(学習ニーズ)の把握を行った公民館は**増加**していますが(図18)、把握しなかった約**3割**の公民館は、**職員が少ないために把握できなかった**と感じています(図20)。

現代的課題と地域課題に関する講座

主催講座として実施している公民館は約**8割**ですが(図40)、実施していない約**2割**の公民館は、**市町村や各担当課で実施しているから**というのが最も多い理由でした(図42)。

岡山大学 熊谷教授による考察

自由記述では、「今後の公民館のあり方」と「公民館の体制の見直し」を合わせたコメントが全体の約半数を占め、職員が公民館の見直しを訴えていることがうかがえる。これらの声を受け止め、**各市町村による体制見直しや防災・減災の対策**も含めた**公民館のあり方を早急に検討**していくべきだろう。

岡山県公民館連合会では、自己点検や評価も含めた事業企画力アップを図る研修や、公民館館長による情報交換会等の研修を計画的に行っています。また、ホームページでも県内公民館の活動の様子などさまざまな情報を提供しておりますので、ぜひご活用ください。